

# 儀礼で呼ばれる祖先たち

## 台湾アミ族シカワサイ儀礼の場合

Ancestors Invoked by Rituals: The Case of the *Si-kawas-ay*  
Rituals of the Amis Tribe in Taiwan

原英子

はじめに

- ①アミ族シカワサイ諸儀礼における祖先
- ②シカワサイ儀礼における儀礼依頼者と祖先の関係
- ③位牌祭祀とシカワサイが呼ぶ祖先

まとめ

### 【論文要旨】

日本統治時代、台湾先住民族に対する宗教政策において、彼らが「祖先崇拜」をするという点が日本人との共通性として強調された時期があった。しかし当時は一部の人類学的な調査を除いて、台湾先住民族の祖先崇拜に注目しても、具体的に個々の民族の祖先がどの範囲を指すのかという点について、詳細な調査はほとんどなされなかった。本稿では台湾先住民族のひとつ、アミ族の宗教儀礼をとおして、祖先の範囲を明らかにすることを目的とする。

アミ族の親族論では、その氏族制と母系制が注目されてきた。特にアミ族は母系制かという点が論議の対象となってきた。そうした中、本稿で取り上げる南勢アミは、その両点が明確にみられないという点から、戦後の一時期を除いて人類学的調査があまりおこなわれなかった地域である。また、かつてアミ族村落に広く存在していたが、現在ほとんどいなくなってしまったシカワサイと呼ばれる宗教的職能者が、一部の村落ではあるが、現在も活動がみられる地域でもある。本稿ではこうした地域的、対象的に収集資料が少ない宗教的な側面からアミ族の祖先の範囲を提示し、アミ族の祖先について考えていく。具体的には、まず個性ある死者と祖先との時間的な推移について取り上げ、次に儀礼依頼者と儀礼で呼ばれる祖先の関係について明らかにする。またアミ族では現在、漢人式の祭壇や位牌を設定する者が増えているが、その際、漢人的な位牌の受容とアミ族的な祖先の関係にも注目する。以上のことをとおして、アミ族の祖先に関する資料提示することで、今後のアミ族親族論の発展のための基礎的な作業をおこなう。

キーワード：アミ族、シカワサイ、祖先崇拜、カダボ、ロマ